

職場編

令和2年度「ごみゼロやまがた県民運動」

山形県では、全国一ごみの少ない県を目指して、「第2次山形県循環型社会形成推進計画（中間見直し版）」を策定し、各種施策を実施しています。また、「ごみゼロやまがた推進県民会議」では、それぞれの家庭や職場で取り組むべき「ごみゼロやまがた県民運動」展開方針を次のとおりとし、全県的な県民運動を推進しています。本県の「1人1日当たりのごみの排出量（都道府県別平成30年度実績）」では、山形県は915gで少ない順から全国18位です。平成30年度におけるもっとも少なかった長野県の811gより、約100g多い状況です。

1人1日当たり約100gごみを減らして、全国一ごみの少ない県を目指しましょう。

職場全体でごみ減量に取り組むことで、環境面だけでなく、経費の削減や生産性・歩留まりの向上、目標管理の徹底、社員等の意識向上など、経営面での効果もあげることができます。以下の3つの運動に、積極的に取り組みましょう。

食品ロスの削減運動（食べ切り運動）

◆宴会の食べ残しは、食品提供量の14.2%。7皿のうち1皿が廃棄されていることに相当します。

（出典：平成27年度農林水産省「食品ロス統計調査・外食調査」）

◆日本の年間の食品ロス612万t（平成29年度推計）は、国連世界食糧計画による食料援助量 約390万tの約1.6倍です。

○食べられる量だけ注文しましょう

・食べる人の嗜好や年齢層等を考えながら食べ切れる量に配慮して、メニューや料理の量を選びましょう。

○「おいしい食べきり運動」に取り組みましょう

・宴会では、できたての料理を味わい、料理を楽しむ時間を作りましょう。例えば、料理が出てから30分、お開き前10分は、席を立たずに料理を楽しみながら食べきる時間を設ける（30・10運動）など、幹事は**食べきり**を呼びかけましょう。

・どうしても残ってしまった料理は、お店と相談して持ち帰ることも検討しましょう。

○山形県では、食品ロス削減に取り組む飲食店・宿泊施設や小売店を「もったいない山形協力店」として登録していますので、積極的に利用してその取組みを応援しましょう



・職場において不要となった食品は、**フードバンク**などへ寄付をすることで有効に活用することができます。

※ フードバンクとは、企業や家庭等から未利用食品の寄付を受け、必要としている人や施設に提供する取組、また、それを行う団体。

プラスチックごみ削減運動

◆日本の人口1人当たりのプラスチック容器包装の廃棄量は米国に次いで世界第2位（2018 国連環境計画報告書）

◆2050年には、海洋中のプラスチック量が魚の量以上に増加の予測（※2016 世界経済フォーラム年次総会報告書）

Reduce

（リデュース=ごみを出さない）

- ・事務用品等の在庫管理の徹底による休眠物品の使用促進
- ・インクなど消耗品が交換・補充できるマーケティングペン、ボールペン等の購入
- ・商品のビニール包装や容器、緩衝材等の簡素化

Reuse

（リユース=繰り返し使う）

- ・会議やイベント等で、使い捨てプラスチック製食器に替えてリユース食器の使用
- ・社員食堂等におけるプラスチック製ストロー等の使用削減及びリユース食器の使用

Recycle

（リサイクル=再生利用する）

- ・プラスチック廃棄物の適切な分別の徹底（例：ペットボトル、食品等付着の無いプラスチック、その他のプラスチック 等）



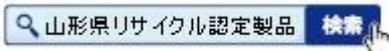
ごみゼロやまがた
県民運動キャラクター
『ごみゼロくん』

環境にやさしい製品の優先購入運動

○エコマーク商品や山形県リサイクル認定製品を優先して購入しましょう

エコマーク商品

山形県リサイクル認定製品一覧



製品やサービスを購入する際は、必要性をよく考え、長く使えるものや使い終わったらごみが少なくなるものなど、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入しましょう。

発行：ごみゼロやまがた推進県民会議

お問い合わせ：ごみゼロやまがた推進県民会議事務局

山形県環境エネルギー部循環型社会推進課

TEL:023-630-2322 FAX:023-625-7991